

鹿児島市令和元年度コミュニティ研修会
平成から令和へ、新たな時代における町内会の再構築

【講演要旨】

鹿児島大学法文学部
准教授 金子 満

1、近年における社会変動について考える【右肩上がりの社会モデルの終焉】

- ・ 少子高齢化社会における人口問題
- ・ 戦後の日本社会の構造は、基本的に人口増、所得増という「右肩上がりの社会モデル」をもとにシステムが構成されてきたが、近年これらの社会システムが機能不全に・・・
- ・ 人口減少社会における「豊かさ」「幸せ」の基準の再吟味

2、地域住民たちによる対話や共感の「場」としてのあらたな町内会への期待

- ・ 地域社会の分断化について考える（他人を見ると泥棒と思え？顔を知らない隣近所）
- ・ 現代社会における共感の壁・・・（私の常識はあなたの非常識・・・）
- ・ なぜいま対話や共感が必要なのか？新たな相互扶助組織としての町内会への期待

3、新たな町内会組織のための基本的考え方について

- ・ これからの町内会活動における大切なキーワードは【連携】【連帯】
- ・ 共に生きるための「目的」「共感」「感動」が必要でありそれを紡ぎ出す「地域の物語」の創出と「場」の構築が求められる

4、新たな町内会活動にむけた【タスキ継承理論】

- ・ 町内会がこれまで積み上げてきた歴史や伝統をタスキに例えつつ、それを次世代につなぐ際、ただ渡すだけでなく、そのタスキにどのような思いを込めて渡すのかということについて考察しなければならない
- ・ これまでの町内会活動の意味や意義を再吟味しつつ、次の世代に何を伝えるかについての吟味が今求められている

5、新たな町内会活動にむけた【信頼再構築理論】

- ・ 町内会に対する期待度や信頼の低下をどう乗り越えるのか
- ・ 新たな町内会活動に必要なキーワード「信頼」「協調」「ネットワーク」への理解
- ・ これらの3つのキーワードをもとに新たな相互扶助や主体形成の場としての町内会を再構築しよう！